

平成27年度 環境基本計画進捗状況報告に対する意見とその対応

資料 1

第4章 実行に向けた取組 進捗状況評価一覧内訳

※評価について 5:十分達成した 4:達成した 3:ほぼ達成した 2:あまり達成できなかった 1:達成できなかった

分野	施策の方向	具体的な施策	担当課	評価※	評価の理由（根拠となる事業など）	審議会で出された意見	対応経過等
自然環境と歴史							
①河川・湧水・用水 水環境を守る							
		●人々に安らぎと潤いを与える親水空間として、ママ下湧水、多摩川や矢川など水辺環境の保全	環境政策課	3	ボランティアや自治会で清掃活動等を行い、水辺環境を保全した。	ママ下湧水公園などには、生態系の調査や保全を主として活動している団体がいる。しかし、記載が無いというのは市にはその活動が評価されていないのか。	ママ下湧水公園だけではなく、市内の公園を主に地域住民が管理する公園協会という仕組みがあります。ボランティアに近いたすが、市が物的金銭的支援をして活動しています。そこで、H28から記載を修正しました。なお、ママ下湧水公園で活動している団体は公園協会に登録済みです。
		●河川・水路(用水路)を活用した生き物観察会など、自然にふれあえる機会の提供	環境政策課	3	多摩川漁業協同組合国立支部の協力の元での多摩川投網体験実施した。毎年1回。	漁業協同組合はあくまでも手伝いで、事業のきっかけ・主体は水の憩談会である。市民参加の評価が抜けていると感じる。	事業について、きっかけは水の憩談会でしたが、現在では両者が協力してお互いの役割を果たしており、不可分な状態になっています。記載方法は再考いたします。
			産業振興課	4	府中用水土地改良区の草刈り作業を通じ、市民に南部地域を流れる用水の魅力伝えた。また、H25にくにたちマルシェin城山公園と題したイベントのなかで府中用水の散策イベントを実施した。	土地改良区について、学生を使って管理をすれば農家の負担にもならず継続した事業ができるのでは。	用水路については、個々の農家が上下流のことに配慮しながら絶妙な取水調整を行っており、単純に人手不足だけではなく、全体の営農状況も関係してくるため、仕組みづくりとしては非常にハードルが高いと思われます。
		●河川改修時に生態系に配慮した護岸や親水空間、散策道等の整備	環境政策課	2	流水機能維持と安全面で低コストを重視すると生態系配慮などは難しくなるが、H26護岸改修工事では自然石を使った擁壁にするなど配慮に努めた。	玉石など自然石を使った護岸づくりを進めるべき。玉石は農家が捨てられずに困っている現状があるので引き取る仕組みがあれば良い。低コストを重視するという書き方では環境配慮より市はコスト重視だと思われるのでは。	玉石を護岸に使用する場合、延長にもよりますが大量に石が必要になります。ストック場所の確保もあり、仕組みづくりが難しいところですが、コストと環境への配慮のバランスを見極めながら検討していきます。
②多様な自然環境を守り育てる							
		●市内の生物多様性について現状を把握するとともに国や都との共同による計画的な保全の推進	環境政策課	1	生物多様性保全に係る計画の策定が先決であり、その計画に基づいて保全を図る必要がある。	10年程前緑の基本計画を作る際、生物多様性の重要性を認識して動物調査会という団体を立ち上げて、報告書を作った。何千万も予算をかけなくても、出来るのでは。	緑の基本計画の改訂(H34)に向けて、同様な手法がとれるかどうか、また生物多様性の計画作りにも活かせるよう調査の内容ややり方を現在検討している最中です。
		●市民、事業者の生物多様性の保全に対する意識の啓発	環境政策課	1	市内の現状が未把握であるため、保全に対する具体的な取組を行う段階になく、保全のための計画も未策定である。	その時は報告書を作成するのに費用がかかり、活動自体はボランティアで行われた。その報告書から10年たった今との比較をするだけでもいいものができるのでは。	
都市環境							
④誇らしい景観を守り、未来につなげる							
		●景観法に基づく景観計画・景観条例の策定	都市計画課	1	景観行政団体になっていないため景観法に基づく景観計画・景観条例の策定は行っていない。	国立市は景観に対する市民の関心が高いのに、市からは積極的な姿勢が見られない。もう少し市民の空気、意見を汲み取って施策に反映出来たらいいのではないか。	景観形成基本計画を現状に即した形に改訂する予定です。なお、来年度は市民を交えたワークショップや市民アンケートを予定しています。

平成27年度 環境基本計画進捗状況報告に対する意見とその対応

資料 1

第4章 実行に向けた取組 進捗状況評価一覧内訳

※評価について 5:十分達成した 4:達成した 3:ほぼ達成した 2:あまり達成できなかった 1:達成できなかった

分野	施策の方向	具体的な施策	担当課	評価※	評価の理由（根拠となる事業など）	審議会が出された意見	対応経過等
資源循環							
⑧ 5Rの推進に取り組む							
		●生ごみたい肥化容器普及など各種取組を通じた生ごみ減量化の推進	ごみ減量課	3	家庭系可燃ごみ収集量原単位は408.4g/人日(H25:414.9g/人日)。生ごみ堆肥化容器購入費補助件数は、H25と比べて10基分減った16基分であった。ミニキエーロ(生ごみ堆肥化容器)モニター参加者137名(1台貸与)、アスカマン(生ごみ発酵促進剤)モニター参加者148名。啓発事業:駅頭啓発21回(水切りネット1,890枚、雑紙分別回収袋7,600枚の配布)、ミニ出前講座62回2,976名、わくわく塾6回93名。	(ごみの有料化に絡めて)約50坪の自宅で生ごみは全て堆肥化できている。国立は大きな家が多いので50坪以上の家からは生ゴミを回収しないことにすれば減量化へつながるのでは。キエーロや生ごみ堆肥化研究会など多くのことが行われているのに評価が3なのは低く感じる。もっと高くてもいいのでは。今後キエーロが大量に出回って、肥料を消費しきれない家庭がでた場合に、市で買い取って農家に譲渡するといったような仕組みが必要になるのでは。	ごみ減量としては導入したいところですが、多種多様な住宅事情もあり、ご意見として頂戴いたします。評価基準を明確化した結果、点数は上がりました。キエーロについては、生ごみを水と二酸化炭素にまで分解するだけで、堆肥になるわけではありません。また、土も増えるわけではなく、それらがキエーロの特徴となっています。
		●家庭ごみ有料化(指定有料袋の導入)	ごみ減量課	1	現在、ごみ問題審議会にて家庭ごみ有料化の制度設計を審議中である。		
地球環境							
⑩ 温室効果ガスの削減を進める							
		●市域から発生する温室効果ガスの排出量把握・削減対策の推進	環境政策課	4	オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」が発行している『多摩地域の温室効果ガス排出量』により、市域から発生する排出量を把握している。国立市住宅用スマートエネルギー関連システム設置費補助金制度により太陽光パネル等の設置に補助金を交付している。H25は42件、H26は37件。	(全体について)項目が少ない印象である。例えば交通分野や緑についても温室効果ガスの削減に大きく関連するので、項目の分け方について適切ではないのでは。評価理由について時系列でより詳しく記載があるとわかりやすいのでは。	温暖化の問題はおっしゃる通り様々な分野に関連しております。指摘された点については今後計画の改訂時に検討をしたいと思っております。評価については2か年を横並びとし、基準を新設し、客観的な評価に努めました。
			交通課	2	土地区画整理事業や民間開発などで、街路灯にLEDを採用し、実施したが、市内約5,000基の街路灯が残っていることから、H27からH31までの5か年で全ての街路灯を省電力型の街路灯に交換する。	交通課以外でも行っている普及推進施策があればここに記載すべき。	庁内に確認したところ、まちの振興課商工観光係で東京都の商店街活性化事業の一部に上乘せ補助(商店街路灯のLED化)を行っています。今後は庁内の環境に資する取組みに対してアンテナを立て、極力拾っていくよう努めます。
		●市域内への再生可能エネルギーの普及促進	環境政策課	3	国立市住宅用スマートエネルギー関連システム設置費補助金制度を実施。H25は42件、H26は37件。	再生可能エネルギーの普及促進のために、もっと市民に勉強してもらうための取り組みをしていくべき。	市民からの申請により開催するわくわく塾のメニューとして「温暖化対策」があるので、こちらのPRを進めると共に、イベント等を開催することが課題と認識しております。

第5章 計画の推進戦略 進捗状況評価一覧内訳

※評価について 5:十分達成した 4:達成した 3:ほぼ達成した 2:あまり達成できなかった 1:達成できなかった

分野	施策の方向	具体的な施策	担当課	評価	評価の理由（根拠となる事業など）	審議会が出された意見	対応経過等
取組基盤に関する施策							
①環境学習・教育を推進する							
		●自然観察会など教育機関との協働による市民啓発イベントの開催	産業振興課	4	教育委員会と協力し、小学校児童稲作体験学習会を実施した。	市民団体の活動に関する記載があった方がよい。全体的に市単独でやっているような表現の部分もあり、残念。市民との連携は評価されることなので積極的に記載すべき。	各担当課へは「市民団体等との協働に関して積極的な記載」を依頼しています。
			生涯学習課	4	郷土文化館主催で、くにたち自然クラブ(生き物・自然観察を通じて自然の大切さを学ぶ)、自然観察会、ハグロトンボ調査隊、星空ウオッチングなどを実施した。		
③各主体間のパートナーシップを構築する							
		●国立市環境ネットワーク設立	環境政策課	4	H27に環境ネットワークを設立し、第1回会議を7月に開催した。年度内に次回会議を開催予定。	環境ネットワークについて、何をやるかまだはっきりと固まっていないと思うが、今後いい形で運営してほしい。	基本計画の目標である「くにたちらしさを守り育てる」について、「くにたちらしさ」を「資源」と言い換えて国立の資源を巡るツアーを10/9に実施しました。また、環境フェスタでは市民の方々に「あなたの資源教えてください」と題して資源ツリーを作成、青々とした立派なツリーが出来ました。 11/23には「秋なのにさくらの資源めぐり」と題して市内各所で桜にちなんだ催しを行う予定です。